

生徒指導研究部

研究主題 「不登校対応を通して考える全ての子供の自分らしさが保障される学校づくり」
～プロアクティブな生徒指導を通して～

I 主題設定の理由

全国的に不登校児童の増加が問題視されている中、本校でも同様に不登校児童の増加が見られている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による休校、令和3年度、4年度については、発熱や体調不良による欠席が出席停止扱いとなっていたため、数値上はとどまっていたが、5類へ移行となり、課題が浮き彫りになってきた。令和5年度の本校の不登校（病気や経済的な理由による者を除いた年間30日以上欠席をした者）の割合は、5.6%であり、全国1.7%に対して非常に高い数値となった。また不登校予備軍（年間15日以上30日未満欠席あるいは別室登校、遅刻早退が30日以上ある者）の割合を入れると、12.8%であり、今後も更に不登校児童が増加する可能性が考えられる。低学年の児童の不登校、発達障害や愛着障害が疑われる子供たちも増加している傾向があり、児童理解を基に個に応じた対応をしていく必要性が高まっている。

令和4年に生徒指導提要在改訂され、一人一人が抱える個別の困難や課題に向き合い、個性の発見と良さや可能性の伸長、社会的資質・能力の発達に資する重要な役割が生徒指導にあることが示された。これを受け、4層3類型の支援構造の視点から学校現場で具体的にどのように子供たちを支援していくか考えた。

発達支持的生徒指導としては、全ての児童にとって学校や学級が安心安全な居場所となるような、魅力ある学校・学級づくりの取組が求められる。また、学校生活の多くの時間を占める授業を改善していくことも考えなければならない。誰一人取り残さない個に応じた学習指導の充実を推進することが不可欠である。

次に、課題未然防止教育としては、児童が自らの精神的状況について理解し、安心して周囲の大人や友人にSOSを出す方法を身に付けるための教育の推進が求められる。さらに、SOSをキャッチするための教員の研修や教員同士の風通しの良い関係づくり、意識改革が求められる。いじめの捉え方や心の教育への考え方などについて、教員間の認識の差を縮めていくことも意識していきたいと考える。

さらに、課題早期発見対応としては、児童のささいな変化や成長に気づき、不登校の予兆が見える児童やその保護者に対して早期に対応する必要がある。チーム学校として生徒指導主任が中心となり、養護教諭や特別支援コーディネーター、学校相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、発達支援センターと連携し、家庭とつながることが求められる。積極的に教育相談を実施し、保護者と学校とが足並みをそろえて支援していきたい。

最後に、困難課題対応の生徒指導として、ケース会議や教育相談、家庭訪問の実施を行う。個に応じて対応し、必要があれば、教育支援センターを紹介する。発達障害や精神的な理由から、35人学級で学習を行う現在の学校が、安心できる居場所になりえない子供もいる。その場合は、つながりを持ちながら社会的自立を目指していきたい。

以上のことを学校全体で共通理解した上で、発達支持的生徒指導と課題未然防止教育、いわゆるプロアクティブな生徒指導について児童理解のために行っていくことを大切にしたい。

Ⅱ 研究仮説

本研究主題を進めるに当たり、以下の仮説を立てて研究を進めることとした。

柱① 授業に自己決定の場面を意図的に取り入れ、個の学びを保障する。

柱② 「心の健康観察」を継続して行い、児童が自身の心の変化を理解する。

2本の柱によるプロアクティブな生徒指導が、全ての子供の自分らしさが保障される魅力ある学校づくりにつながるであろう。

※魅力ある学校とは、楽しい学校・安心安全な居場所となる学校と考えている。

Ⅲ 研究実践

1 自己決定場面を取り入れた授業（柱①）

中央教育審議会が令和3年に公表した『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』を受け、個に応じた指導の充実を図ろうと考えた。具体的には、子供が自己決定する場を意図的に作り、徐々に子供に任せていくことを意識している。校内の研究授業では、自己決定の場面を意識し、個の自分らしい学び方が保障される授業を提案した。

（1）令和5年度の実践

＜第4学年 算数科＞

単元の中で、一斉で行う授業と個別に探究的に学習する時間を分けて計画し、学習を通してもっと知りたいことを追究するための時間を作ることを行った。子供たちに任せる割合を多くし、何を、どのように学ぶかを自己決定できるようにした。

小数の表し方やしくみを調べよう 単元の学習計画【全9時間】

- ・ 小数が整数と同じしくみで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深める。
- ・ 小数のたし算およびひき算の計算ができる。
- ・ 数の表し方のしくみや数を構成する単位に着目し、計算のしかたを考えるとともに、それを日常生活に生かす。

小単元	時	内 容	評価の観点	形 態	想定される子供の表れ
1 小数の表し方	2	●やかんに水を目分量で1L入れ、そのかさ比べをし、はしたの量の表し方を考える。 ●0.1Lを10等分した1つ分を0.01L、0.01Lを10等分した1つ分を0.001Lと表すことを知る。	態度	一 斉	・ 0.1Lを10等分して考えれば、はしたの数を表すことができるんだ。 ・ 去年0.1Lを作ったときと同じ考え方だね。
		●走り幅跳びの記録の長さをm単位で表す方法を考える。 ●mをkm、gをkgで表す。	知・技	一 斉	・ mとcmで表した長さはmだけで表すことができるんだね。 ・ kmやkgも表すことができるね。
2 小数のしくみ	3	●1, 0.1, 0.01, 0.001の関係を調べる。 ●小数の位取りのしくみをまとめる。	知・技	一 斉	・ 小数も整数と同じように10倍、 $\frac{1}{10}$ ごとに新しい位になるんだね。
		●小数の相対的な大きさについて、整数のときと同じ考え方をもとに、比べ方を考える。【本時】	思・判・表	個	・ 表や数直線を使うと比べやすいよ。 ・ それぞれの位ごと比べていくといいよ。
		●小数の相対的な大きさの比べ方についてどうしてそう考えようと思ったのか共有する。 ●10倍、 $\frac{1}{10}$ の数の、それぞれの数の位について考える。	知・技	一 斉 個	・ 小数点をそろえて、一の位から比べる方法が分かりやすかったよ。 ・ 整数みたいに位がひとつずつずれていくね。
3 小数のたし算とひき算	2	●小数のたし算の計算の仕方を考える。	思・判・表	個	・ 小数点をそろえると位がそろって計算できるね。 ・ 末尾が0のときどうしたらいいんだろう。
		●小数のひき算の計算の仕方を考える。	思・判・表	個	・ 0をつけたり、消したりするのが難しいな。 ・ ひき算も整数と同じように位をそろえて計算すればいいんだね。
4 まとめ・発展学習	2	●末位がそろっていない場合の筆算についてどうしてそう考えたのか共有する。 ●小数の数構成、大小比較、たし算、ひき算の確認をする。	知・技	一 斉 個	・ 位をそろえないと計算がおかしくなっちゃうよね。 ・ ひき算がよくわかってないからひき算を集中的にやろう。
		●学習を通してもっと知りたいことを追究する。	態度	個	・ 円周率ってすごい長い小数だ。 ・ 僕の家までの道のりを測ってみたいな。

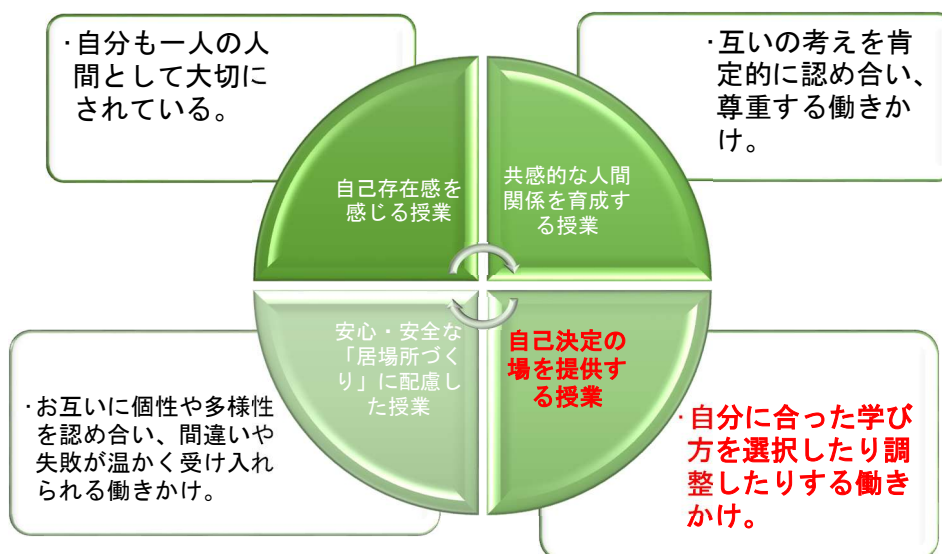
子供たちからは「自分のペースで学習をすることができたので良かった。」「分からないところがあっても分からないまま進んでいくことがなくて安心して学習できた。」「円周率についてウェブを使って学習できたことが楽しかった。」という意見があった。単元計画を子供と共有することで、子供たちは見通しを持って学ぶことができていた。

一方、事後研修では、参観した教員から算数が得意であったり、自ら学習を進めていく力があつたりする子は進んでやっていたが、今までの学習でつまづいている子だと自ら学習を進めていくことが難しそうな様子があったと意見が挙がった。自分たちで対話しながら学びを進めるといふ願いを実現するためには、教員がファシリテーターとしてどのような関わりをし、学ぶ環境や教具などを整えていくか今後も研修していく必要性を感じた。

他にも体育の授業で、一斉に体操をした後、「今日はTボールをやるから自分が必要だと思うストレッチを1分間してごらん」といったように、小さなことでも自己決定できる場面を意図的に作るようにした。

(2) 令和6年度の実践

令和5年度の実践を受け、校内研修と生徒指導の連携を図り、令和6年度の研究主題を『「たい」がつながる授業～個別最適な学びと協働的な学びの充実～』とし、発達支持的生徒指導の視点から校内研修の見直しを行った。特別に新しいことをするのではなく、現在の取り組みを問い直し、授業こそが発達支持的生徒指導の場であることを再認識した上で、自己決定の場を意図的に提供することを教員全体で意識していくことにした。



(出典：「子どもたちの未来のために」 令和5年8月静岡県教育委員会義務教育課)

<第6学年 社会科の実践>

学習の見通しである「学習ガイド」を子供たちと共有し、自分にあつたペースで学びを進められるように自由進度学習を行った。教科書や資料集、ウェブ、図書室の本などの学ぶ材料について、誰と学ぶかについて、教室や廊下（ホール）の円卓や畳スペースなどどこで学ぶかについての自己決定ができるようにした。

わたしたちのくらしと日本国憲法 学習ガイド 自由進度学習 【全6時間】

日本国憲法の3つの原則とくらしとのつながりについて理解する。
わたしたちのくらしに生かされていると考えられる取り組みとその工夫、それを広げていくためにはどうしたらよいか考える。

内容	教科書	材料	提出 先生チェック	自己 チェック
日本国憲法について調べる。	8～11	資料集 本 NHK for school		
国民主権について調べる。	14～15	資料集 本 NHK for school		
基本的人権の尊重について調べる。	16～17	資料集 本 NHK for school		
平和主義について調べる。	18～19	資料集 本 NHK for school		
3つの原則の考え方についてまとめる。	8～19	今までの学び	ロイロ提出 シート①	
★先生のチェックを受けよう			月	日
3つの原則がわたしたちのくらしに生かされていると考えられる取り組みについてまとめる。	20	今までの学び	ロイロ提出 シート②	
★先生のチェックを受けよう			月	日
取り組みの工夫、さらに広げていくためにはどうしたらよいか考える。	21	今までの学び	ロイロ提出 シート③	
★先生のチェックを受けよう			月	日
広島の小学生の取り組みについて知る。	22～23	資料集 本 NHK for school		
単元の学習を通して生まれた問いを追究する。		資料集 本 NHK for school Web	ロイロ提出 シート④	
★先生のチェックを受けよう			月	日

子供たちからは、「自分が知りたい課題を調べられたり、分からないところは友達に教えてもらったりでき、自分で進められたから良かった。」「自分が知りたい課題を持てたし、自分の調べたい課題をウェブや資料集、本などで調べられるのが良かった。」「今までは授業が終わっても分からないことがあったけど、分からないところがなくなった。」「自分のやる気に合わせてできて良かった。」「円卓エリアでできるからうれしい。」「自分のペースで勉強することができた。友達と集まって行い、自分になかった意見に気付けることができたし、自分から課題を見付けて取り組む力が付いたと思う。」「友達と一緒に勉強できて楽しい。」「友達との仲が深まった。人に教えることで自分の頭にも入った。」といった肯定的な意見が挙がった。

2 1人1台端末を活用した心の健康観察の実施（柱②）

令和5年に公表された『誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」』の中に、心の小さなSOSを見逃さずに支援するための1人1台端末を活用した健康観察がある。令和5年度2月から2・4・6年生の一部の学級で先行的に実施を行い、令和6年度から全学級で心の健康観察を始めた。本校では、タブレット端末でロイロノートを使用し、「Q1.心の天気を教えてください。」に対して「晴れ」「くもり」「雨」「かみなり」で答え、「Q2.その天気を選んだ理由を教えてください。」に対して自由記述で答えられるようなアンケート内容にしている。令和6年度当初、先生方と子供たちに目的とやり方を説明した。毎朝アンケートを送り、回答の結果を受け、1日の様子を観察したり声を掛けたりしていくことを共通理解した。特に、心の天気が雨やかみなりだった児童には個別に声を掛け、対応するようにした。子供たちには「毎朝、心の健康観察を行います。みなさんが自分の心を知って上手に向き合ったり、困っていることや悩みをすぐに相談できるようにしたりするための取組です。体と心はつながっています。体調が悪いときもアンケートに記入をしてください。心の天気やその理由を確認して、答えた子に声を掛けることはありますが、全体の前で話したり、別の子に話したりすることは絶対にしません。安心して正直に教えてください。」と伝えた。子供たちからは、「今日は体育の跳び箱があって楽しみだから晴れ」「花粉症で目がかゆいからくもり」「朝からお母さんに怒られたから雨」「昨日の放課後に遊んでいた友達とけんかしたからかみなり」といったような回答が見られた。児童自身が心の小さな変化に向き合っていけるようになることに期待をしている。また、結果によっては、休み時間等に声掛けを行ったり関係児童を集めて指導したりすることで早期対応をし、安心安全で自分らしさが保障される学校につながっていきたいと考えた。

令和5年度に先行実施したものについて、抽出児の回答とその対応や考えたことについて以下にまとめた。

抽出児童A（4年生）
 思いやりがあり、いつも自分より友達のことを優先している。父親が長期で入院しており、母、兄、本人で生活をしている。学校生活の中でときより元気がなさそうに見えることがあり、児童自身が心の変化に気付くと共に教員もより一層心の変化に目を向けていく必要性を感じた。不登校予備軍になる可能性が感じられる児童である。

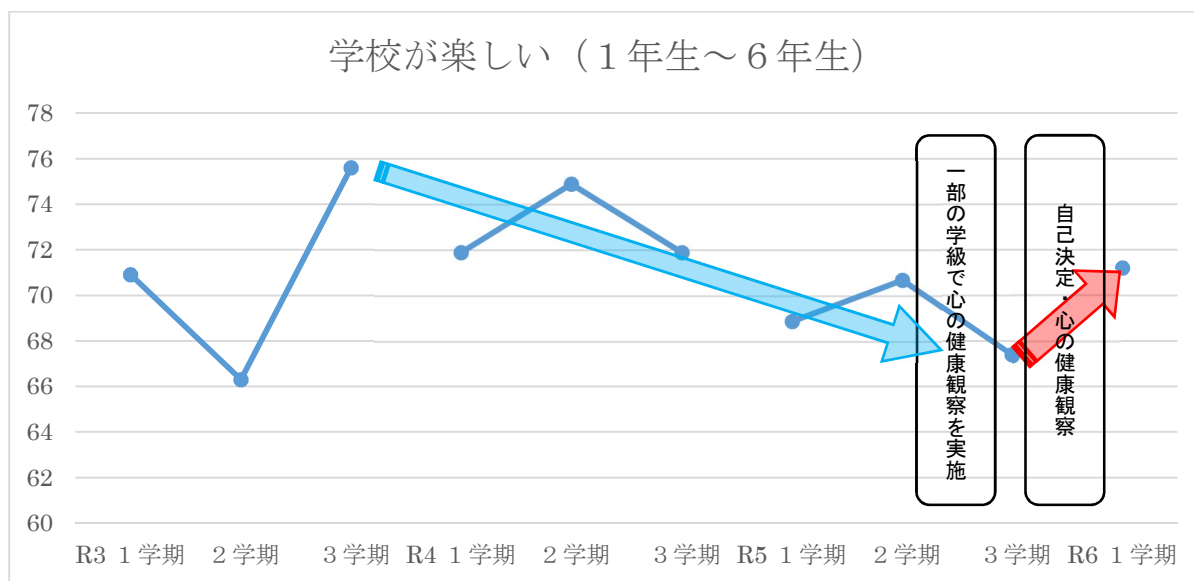
日にち	心の天気	その天気を選んだ理由	対応や考えたこと
令和5年度 2月13日(火)	晴れ	みんなと会えたから。間違えて 書きちゃったときに先生が修正液で直してくれたから。	また困ったことがあったら教えてねと伝えた。
14日(水)	くもり	みんなと会えてうれしかった。 今日学校が終わったらBさんやCさんと遊ぶから。絵具セットを忘れちゃったから。	Dの回答の中に「Aさんに悪口を言ってしまった。」という内容があったためAに事情を聞いた。併せてDに指導を行った。
15日(木)		欠席	前日のことが心に残っている可能性を考え、保護者連絡をしたが、通じなかった。「Aさんが欠席だからくもり」とDの回答があった。
16日(金)	くもり	BさんとEさんとDさんが朝話してくれたから。	Dとの関わりをよく見るようにした。
19日(月)	くもり	雨だから鬼ごっこができない。クラスで5人が欠席だから。EさんやDさんが笑わせてくれるから。先生が朝挨拶をしてくれた。	Dとの関係は良くなっているように感じられた。
20日(火)	くもり	テスト計画表を忘れちゃったから気を付けたい。でも先生が優しく接してくれた。	Dとの関わりについて聞いた。Aは「大丈夫。今、悪口は言われていない。」と答えた。

抽出児童Aに心の健康観察を実施してどうだったか尋ねたところ、「自分の心を知ることができた。先生に相談しやすくなった。ちょっとしたことでも声を掛けてくれ、嬉しかった。」と答えた。他の児童の心の健康観察の結果を受け、生徒指導的な問題を早期発見でき、対応することができた。

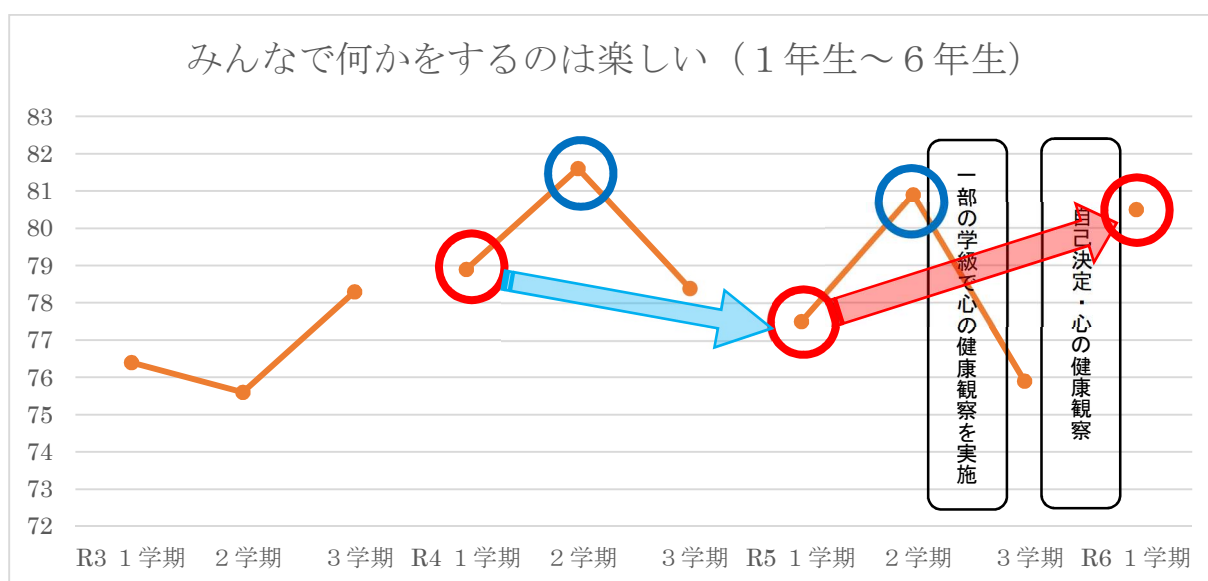
IV 成果と課題

1 「魅力ある学校づくり」意識調査の数値分析

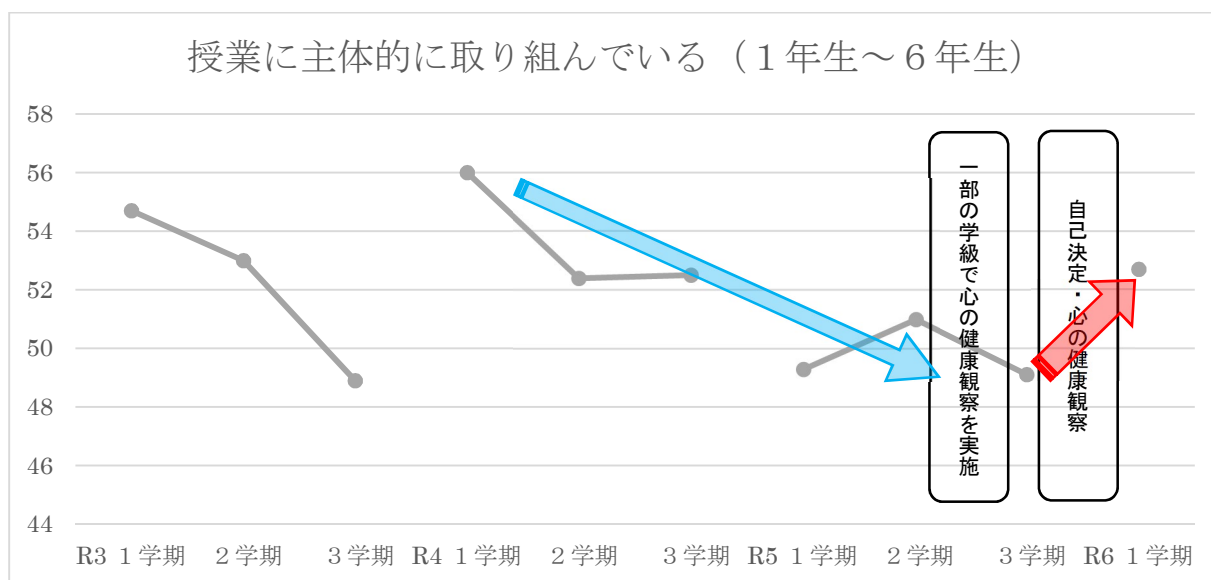
御殿場市では国立教育政策研究所の指定研究である「魅力ある学校づくり調査研究事業(H30、31)」に取り組んでから、その研究で指標となる「意識調査」を行っている。年3回実施し、重点を置く項目の数値の変容から日々の教育活動の見直しにつなげている。今回は、その数値の変容から成果と課題を考える。それぞれの数値はアンケート項目に対し4段階中「1(よくあてはまる)」と答えたもののみとなっている。



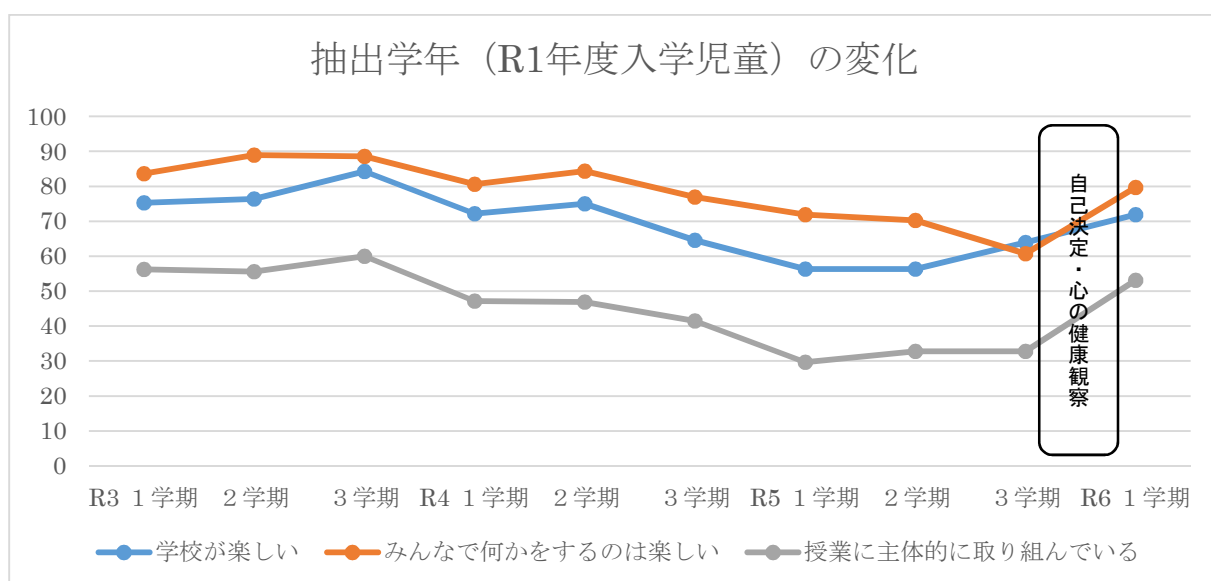
「学校が楽しい」という項目で令和3年度3学期から下降気味であった数値が、実践を通して上昇した。過去2年間の結果から継続して実践を行っていくことで2学期は更に上昇させていくことが可能であると考える。



「みんなで何かをするのは楽しい」という項目で、令和4年度1学期から令和5年度1学期を比較して下降気味であった数値が、実践を通して上昇した。この項目でも過去2年間の結果から継続して実践を行っていくことで2学期は更に上昇させていくことが可能であると考え。運動会といった大きな行事を乗り越えていく際に、子供自身が自分の心と向き合い、SOSを出せるようにしていくこと、同時に教師がそれに早期に気づき、対応していくことを通して「楽しい」という思いを持たせていきたい。



「授業に主体的に取り組んでいる」という項目で令和4年度から下降気味であった数値が、実践を通して上昇した。過去3年間の傾向から今後数値が下がっていくことが考えられる。自己決定場面を1学期以上に意識して取り組んでいくことで、子供たちが主体的に自分らしく学んでいく姿を目指していきたい。



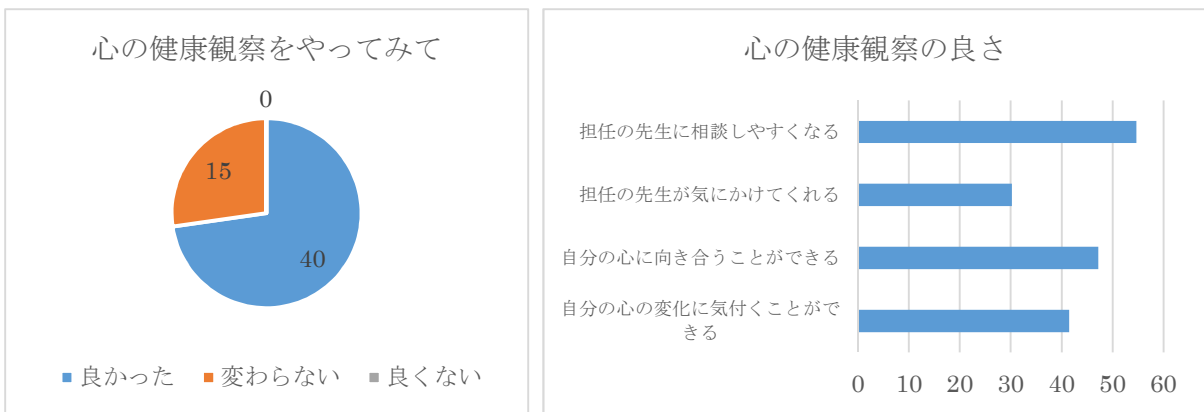
令和6年度6年生の数値変化

	R5 3学期学年	R6 1学期学年	R6 1学期学級
学校が楽しい	63.9	71.9 (+8)	73.9 (+10)
みんなで何かをするのは楽しい	60.7	79.7 (+19)	78.3 (+17.6)
授業に主体的に取り組んでいる	32.8	53.1 (+20.3)	56.5 (+23.7)

現在担任をしている令和6年度6年生の「魅力ある学校づくり」意識調査の数値の変化を分析すると、3つの項目全てにおいて大きな数値の上昇が見られた。授業を充実させることは、子供たちが「学校が楽しい」と感じることに密接な関係がある。「魅力ある学校づくり」事業では、これらの数値が高いほど新規不登校数が減少するとしている。

2 心の健康観察に関するアンケートの分析

(1) 心の健康観察について令和6年度6年生55名を対象にアンケートを行った。



約70%の子供から心の健康観察を始めて良かったと回答があった。良さについては、「担任の先生に相談しやすくなる」が一番多く、次いで「自分の心に向き合うことができる」という回答が多かった。その他として「言いにくいことも書けば伝わるから安心する」「自分の気持ちが伝えられる」「いろいろな意見が書ける」「今自分が何に困っているか分かった」といった回答が見られた。子供の声から課題未然防止教育の役割だけでなく、課題早期発見対応にも生きていることが分かった。また、学校が子供たちの安心安全な居場所につながっていると考えられる。

(2) 心の健康観察について、学級担任を対象に自由記述式でアンケートを行った。

<成果>

- ・子供の朝の心の様子が分かる。
- ・意外な一面を知ることができる。
- ・話をしない子供の心を知ることができる。
- ・その日の気分やあったことに気付くことができる。
- ・何かあったときに指導の参考になる。

- ・不登校児童の様子を把握できる。
- ・言い出しづらいことを子供たちが伝えられる機会になっている。
- ・自己表現が難しい子や表情が変わらない子の様子が分かるようになった。
- ・悩みに寄り添えるようになった。
- ・得意教科や苦手教科によって心の天気が変わることがあるので、その授業での手立てを考えるようになった。
- ・家庭での関わりの様子が分かるようになり、学校での関わりを考え直すことができた。
- ・毎日やることに意味がある。

<課題>

- ・子供の回答を確認する余裕がない。
- ・子供と話す時間がない日がある。
- ・1時間目が移動教室や入り授業、特別日課は時間的に難しい。
- ・やりっぱなしになってしまう。
- ・タブレットから離れられない子供が出る。
- ・朝のうちに確認し、対応することができていない。
- ・低学年では理由を打ち込むのに時間がかかる。
- ・担任だけではなく、複数の目で確認できるようにしていきたい。
- ・保護者との共有をどこまでしていくか悩むことがある。
- ・理由が書けない子がいる。
- ・担任が不在のときどうしていくか。

教員のアンケートから、自己表現が難しい子に対する児童理解につながったことが多く挙げられた。また、4月当初の新たな学級への不安や困り感に気づき、対応することができたことは大きな成果だったと感じる。不安から学校に登校できていない子も家庭から「心の健康観察」に答えてくれることで、電話連絡や家庭訪問だけでなく、端末を通して現在の様子を知ることができた。課題未然防止教育の役割だけでなく、困難課題対応的生徒指導にも生きてくることが分かった。

改善点としては、現在、担任だけが学級の子供の結果を見ることができるシステムで行っているため、負担感も強くなっていることが考えられる。そこで今後は、管理職や養護教諭、学年部、教科担任など、複数の目で見て対応できるシステムに変えていきたいと考える。

授業に自己決定の場面を意図的に取り入れ、個の学びを保障すること、「心の健康観察」を継続して行い、児童が自身の心の変化を理解することを軸とした生徒指導体制をしいたところ、児童たちの学校生活における満足度は上昇した。また、現在、本校の新規不登校児童は出現しておらず、引き続き、継続させていきたい。今後も、プロアクティブな生徒指導により、全ての子供の自分らしさが保障される魅力ある学校をつくっていきたい。